

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年6月4日
北アルプス地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	23	課題区分	A		
実施機関	北アルプス地域振興局			担当課	所属 林務課
事業名	北アルプス広葉樹製品化モデル事業 (令和元年度大北地区森林整備実務者研修)			電話	0261-23-6522
				E-mail	kitachi-rimmu@pref.nagano.lg.jp
事業の概要	目的 (目指す姿)	大北地区林業事業者の森林整備実務者等を対象とした「大北地域森林整備実務者研修」において、「広葉樹林業のビジネス化」に向けて県外先進地の取組事例や地域広葉樹の利活用を推進するための研修会を開催し、地域林業の活性化を目指す。			
	現状と課題	北アルプス管内の林業は補助金不適正受給事案等の影響により停滞が続いているが、管内民有林の主要な資源である広葉樹を活用した林業活動の活性化は、地域産業の健全な発展と森林整備の推進に寄与することが期待される。 「森林整備実務者研修」を開催し、大北地区の林業事業者実務者等の林業技術のレベルアップを図りつつ、コンプライアンス意識を持って業務を実行できる人材育成を進める。			
	内容 (変更後の内容)	<p>○広葉樹製材技術に関する「森林整備実務者研修」の開催 目的:広葉樹の利活用及び製材技術(製材品への加工)の定着 内容:広葉樹原木の選木、木取り、売れ筋製材品規格等について 対象:「大北森林組合」「大北木材協同組合」「林業事業者」等の実務者等 講師:民間製材会社、長野県林業総合センター木材部 等</p> <p>○広葉樹製品化モデル実証調査 ①実務者研修で製材した製材品の保管及び天然乾燥工程中の割れ・反り調査 ②実務者研修で製材した製材品の人工乾燥による割れ・反りのモデル調査 ③実務者研修で製材したモデル製材品の販売可能性検討(販売価格推計) ④調査結果の取りまとめ、製材品歩留り・販売推計価格に基づく収益性の検討</p>			
	事業期間	令和1年11月20日		～	令和2年3月31日
	成果目標 (成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> 大北地区森林整備実務者研修において「広葉樹林業のビジネス化」をテーマに研修を開催 大北地区で生産可能な広葉樹製材品(板)の評価や製品歩留まり調査などを実施し、今後の販売可能性を検討 			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	大北地区森林整備実務者研修	講師謝金・費用弁償旅費 消耗品(研修用原木)、役務費等	174,827	報償費、旅費、需用費、役務費、材料及び賃賃料	
	広葉樹製品化モデル実証調査	広葉樹板製品管理及び歩留り調査	227,332	歩留まり調査は局主体に実施 製品保管経費及び調査補助役務の提供に内容変更 林業総合センターにおける一部板材人工乾燥をモデル的に実施するための経費(需用費)を追加	
	合計		402,159		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	<p>○大北地区森林整備実務者研修(令和元年12月5日) 講師:岐阜県 オークヴィレッジ榎佐々木副社長 参加者:大北森林組合、林業事業者等 30名 ・先進地の取り組み事例紹介、管内産広葉樹11樹種(約120枚)板材の評価・活用方法の検討 ○広葉樹製品化モデル実証調査 ・広葉樹板材の利活用について、大北林業研究グループ等の地域林業者・木工作家等と検討。 ・板材の一部は、天然乾燥と人工乾燥による乾燥工程・歩留り等の比較試験を実施(県林業総合センター木材部の技術支援による)</p>		<p>○大北地区森林整備実務者研修 先進事例等を参考に、北アルプス管内における広葉樹林業のビジネス化が可能であること、広葉樹が地域特有の資源として有望であることが認識できた。 ○広葉樹製品化モデル実証事業 広葉樹板材の製品化には人工乾燥が有利だが、管内で可能な乾燥方法と天然乾燥材を含めた板製品の活用方法について、検討を継続していく必要がある。</p>		<p>○ 期待以上</p> <p>● 期待どおり</p> <p>○ やや下回る</p> <p>○ 期待以下</p>
今後の方向性	令和2年度は「広葉樹林業のビジネス化」の中間報告として、広葉樹活用フォーラム(仮称)を開催。広葉樹製品化モデル実証調査は、調査未実施樹種(ミズナラ・ウダイカンバ等)について実証を行うとともに、引き続き地域内における活用方法について検討を継続。				